

愛知県立芸術大学音楽学部

愛知県立芸術大学大学院音楽研究科 博士前期・博士後期課程

平成 28 年度 卒業論文・修士論文・博士論文要旨

卒業論文

ヴィクトリア朝イギリスにおけるコンサート

——クリスタル・パレスの土曜コンサートを例に

江口麻依 愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻（音楽学コース）

要旨

19 世紀におけるイギリスのヴィクトリア朝 Victorian era（1837～1901）では、18 世紀後半から始まった産業革命によって、首都ロンドンを中心に世界に先駆けた近代化が進められていた。1851 年に開催されたロンドン万国博覧会 The Great Exhibition of the Works of Industry of All Nations は、この時代を最もよく象徴する出来事の一つである。この頃のイギリスでは、社会的な生活水準の向上に伴い、人々の趣味・趣向にも様々な変化が生じた。その一つとして、公開コンサートの発達と普及が挙げられる。19 世紀以降、イギリスには様々な国籍の音楽家が集まり、自国の音楽家と共に、この時代に建てられた巨大なコンサートホールで活発な演奏活動を展開していた。

本論文では、このような時代背景のもと、ヴィクトリア朝イギリスで発展した新しいコンサート文化に着目し、それらのコンサートが大衆から支持された理由を探ることを目的とした。その一例として、ロンドン万博の会場として建設され、後に市民の憩いの場として親しまれたクリスタル・パレス Crystal Palace の活動に注目し、この場所で開催された土曜コンサート Saturday Concert を取り上げた。クリスタル・パレスは、この時代を象徴する建物であり、その活動はしばしば市民に対する教育普及の視点から高く評価されてきた。土曜コンサートでも、主催者の一人であるジョージ・グローヴ Sir George Grove（1820-1900）が曲目解説を執筆しており、この曲目解説の提供によって、土曜コンサートに教育的意義をもたらそうとしていたと考えられる。そこで、クリスタル・パレスにて展開された土曜コンサートの特徴を分析することで、娯楽的側面と教育的側面から土曜コンサートを再評価し、ヴィクトリア朝イギリスで開かれたコンサートにみられる大衆性を考察した。

論文全体は 3 章から構成される。

第 1 章「ヴィクトリア朝イギリスにおけるコンサート文化」では、イギリスにおける演奏会の隆興から、ヴィクトリア朝に公開コンサートが発展するまでの経緯を論じた。第 1 節では、16～18 世紀にかけて展開されたコンサート活動が、各階級の生活水準や嗜好を強く反映したものであったことを指摘した。第 2 節では、ヴィクトリア朝にみられるコンサート文化の発展を、ヨーロッパ諸国の革命や動乱による社会情勢の変化から考察し、ヴィクトリア朝イギリスで開かれたコンサートの特徴を明確にした。

第2章「クリスタル・パレスの活動―教育と娯楽の場として」では、クリスタル・パレスの活動における大衆性を、娯楽と教育の2つの視点から論じた。第1節では、ロンドン万博とクリスタル・パレスの成り立ちを概観し、市民本位な美術協会の活動が、大衆から絶大な支持を得たことを示した。第2節では、シドナムに再建されたクリスタル・パレスが「娯楽と教育の場」として機能し、それらの活動が広く大衆に開かれていたことを述べた。

第3章「クリスタル・パレスの土曜コンサート」では、グローヴが目指した土曜コンサートの実態を明らかにし、教育と娯楽の視点からこのコンサートが大衆に支持された理由を考察した。第1節では、グローヴの生涯と活動をまとめ、彼が自身の勤勉さをもって、土曜コンサートにおいても教育的意義のある活動を意図していたことを示した。第2節では、土曜コンサートの主な活動や制度から、公開コンサートとしての大衆性を考察した。そして、土曜コンサートが音楽普及を目的としており、故に下層階級の人々にも開かれた制度を備えていたことを指摘した。第3節では、土曜コンサートのプログラムを分析し、その特徴がヴィクトリア朝にて発展した公開コンサートの特徴と一致することを明らかにした。第4節では、グローヴが執筆した曲目解説にみられる教育的要素を、クリスタル・パレスの大衆性と教育的活動の側面から考察し、土曜コンサートにおける音楽教育とその普及において、彼の曲目解説が重要な役割を果たしていたことを述べた。

土曜コンサートは、ヴィクトリア朝イギリスにて確立された、近代的な公開コンサートの一例として位置づけられるとともに、娯楽と教養を提供したクリスタル・パレスの活動の一端を担うものでもあった。安価な入場料で、誰もが広い会場で演奏される上質な音楽を享受することができ、さらに音楽に関する教養を身につけられるこのようなコンサートは、多くの人々から支持されたといえる。